

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795200126		
法人名	(株)ケア21		
事業所名	たのしい家都島		
所在地	大阪市都島区御幸町1-6-5		
自己評価作成日	令和5年7月6	評価結果市町村受理日	令和5年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和5年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設開設から6年になり、「認知症になってもその人らしい生活ができる」を第一に、その人の状態を把握することや自己決定を優先する、又、自尊心を傷つけないような接し方や話し方を研修で学び、より良い介護ができるように実践しています。コロナ対策感染症対策の為、外出や面会の制限から解放され家族様との面会・外出など楽しめる日々になってきました。イベントやレクリエーション等に力を入れ、その人らしく生き生きとした生活が送れるように支援していきます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中にあり、事業所前に公園があり、春には窓から満開の桜を楽しむことができ、花見にも出かけている。併設している小規模多機能型居宅介護事業所が開催するカフェに参加し、地域の人や幼稚園児と交流する機会作りを再開している。毎月、季節感ある作品を利用者と一緒に制作して各フロアに飾り、季節感を取り入れている。季節感や行事食を取り入れた献立で手作りの食事を提供し、リクエスト食やイベント食も企画し食事やおやつに変化が楽しめるよう取り組んでいる。法人が全職員が必要な研修を計画的に受講できる研修体制を整備し、職員の資質向上に取り組んでいる。医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『認知症になってもその人らしく生きる』ということで自己決定を優先するように職員は共有している。	法人の経営理念・コンプライアンスマニュアルを掲示し、朝礼で読み合わせを行い周知を図っている。事業所独自の理念・ビジョンも掲示し、ビジョンに「地域交流」として地域密着型サービスの取り組みを明示している。期末に、事業所理念・ビジョンの振り返りを行い、実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の幼稚園との交流があり、運動会に行ったり、施設でのイベントがあれば参加していたが、コロナ対応が解除になったばかりで少しずつ前の様に戻していこうと思いません。	自治会に加入し、コロナ対応中も、食材・食品・日用品等の買い物に地域の店舗を利用し、地域からの介護相談に対応する等、地域とのつながりを継続できるよう取り組んでいた。今年の5月には、1階の小規模多機能事業所が開催するカフェに幼稚園から来訪があり交流する機会があった。今後、幼稚園の行事や地域のイベントへの参加、施設の夏祭りへの招待等、地域交流を徐々に再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1階小規模多機能が開催しているカフェに参加して、地域の方との交流を進めている。開催あれば介護フェスティバルに参加したいと思っています。相談があれば話をしている。		

たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月より2か月に1回開催する運営委員会を再開しました。家族様、町会、地域包括支援センターの担当の方など参加を呼びかけ、できない家族等は議事録で事故報告、改善策を説明している。また、家族様には月一回のお手紙の時に書面で報告し電話をする要件があればその時に質問等を聞き都度説明している。	コロナ対応期間中は事業所職員のみで2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センターと全家族に議事録を郵送していた。今年の6月は小規模多機能事業所と合同で開催し、地域包括支援センター・家族の参加があった。会議では、利用者や事業所の状況を報告し、参加者と意見・情報交換し、議事録を作成している。議事録は身体拘束・高齢者虐待委員会の議事録と一緒に、地域包括支援センターと全家族に郵送し、玄関に設置し公開している。	利用者・地域代表・知見者を含む構成委員を明確にし、参加できない場合も議事録の郵送や意見・情報の収集を行うことが望まれる。利用者については、可能であれば、短時間参加等を検討してはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	FAX等で感染症の注意喚起があり職員に周知したり、アンケート調査への回答、研修案内があった時には参加する等、協力関係を気づくよう努めている。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターと連携している。区の保護課と連携し、利用者支援を行っている。市とは、ファックやメール、研修案内、アンケート調査への回答等により連携し、質問・相談等あれば、適宜問い合わせを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、身体拘束についての研修を行っている。2か月に1回身体拘束委員会を開催している。申し送り時などに職員からの質問(スピーチロック・4点柵その他)などに答え身体拘束のない施設になるように努めている。	「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。2ヶ月に1回「身体拘束適正化・虐待防止委員会」を実施し、事例がないことの確認と、適正化に向けた検討や確認等を行っている。議事録の回覧により、全職員への周知を図っている。年間研修計画に沿って、年に1回「身体拘束適正化・虐待防止」研修を動画研修で実施している。全職員が視聴し、確認テスト・報告書の入力により受講を確認している。フロア・玄関は施錠しているが、外出の希望があれば玄関先や近隣の公園に職員が同行し、閉塞感を感じないよう支援している。	委員会や会議の議事録、訓練の実施記録等について、回覧印の徹底により周知を明確にすることが望まれる。

たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、虐待防止についての研修を行っている。身体に痣や傷を発見したときは職員同士で確認し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社などで成年後見人の研修を受けている。また、施設の入居者様で成年後見人をつけている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時と契約解除時は家族様の疑問点に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族様に電話をする時に意見や要望を聞き、反映できることはしている。	家族の意見や要望は、面会時や電話連絡時に聴き、フロア内で共有し個別に対応している。「都島だより」・訪問看護記録を毎月、運営推進会議の議事録を2ヶ月に1回郵送し、利用者の様子や事業所の状況等を報告し、意見・要望を出しやすいように努めている。年1回法人が家族へのアンケート調査を実施し、法人が家族の意向を把握する機会も設けている。利用者の意見や要望は、日々のコミュニケーション中で把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロア会議、全体会議で職員から意見や提案を発表してもらうようになっている。	月1回、全体会議とフロア会議を実施し、職員の意見・提案を反映できるよう取り組んでいる。全体会議に各ユニットから参加し、事故・イベント・利用者・職員等について、ユニット合同で報告や検討を行っている。フロア会議では、フロア内の各利用者の状況や業務についての情報共有や検討を行っている。日々の検討事項は、フロア内で検討し、申し送りノートで共有している。定期的には年2回、必要時には随時管理者が面談し、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。法人が年1回職員アンケートを実施し、法人に意見等を伝える機会も設けている。	

たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業績一時金や誰伸び制度などがあり、毎年給料が上がっている。段位制度で能力により給料が変わる事や処遇改善等また有給も取れている。 サービス残業は行っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・コーチング研修等内外の研修を積極的に受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これから、参加し交流を増やしたいと思います。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前に生活歴、生活、嗜好等を把握し本人が安心して暮らせる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安、疑問、要望等に応え、関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何ができるのかを把握し、できる事の継続または支援すればできる事を入居者様と共に行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事の維持、継続をするために職員が寄り添うように見守りをしている。		

たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お便りで状況報告や電話にて本人の様子などを家族様が安心出来る様にな状況報告をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に入る前の近所の人が面会でお会いする機会があった。	馴染みの関係について情報があれば、「フェイスシート」に記録している。コロナ対応解除後は、家族や家族了承の下で友人・知人の面会を再開し、馴染みの関係継続を支援している。手紙や電話の取り次ぎによる関係継続の支援も継続している。馴染みの場所への家族との外出も、徐々に再開している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意思疎通が困難な入居者様には職員が間に入り、関係を良好に保つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様によっては退去後も訪問に来てくださっていましたが、現在は訪問されない。先方より連絡がない限りは援助等は行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定を優先にし、その人らしさを大切にしている。	入居時に把握した利用者個々の思いや暮らし方の希望を、「フェイスシート」の「生活歴」「趣味・嗜好」「本人及び家族の主訴や要望」欄に記録し、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。入居後のコミュニケーションの中で把握した内容は、「個別シート」やフロア会議で共有している。把握が困難な場合は、表情や反応等から把握に努め、また、居室担当職員を設置し対応している。	

たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室担当者・職員が会話の中でこれまでの暮らしを聞き共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタル測定や様子観察を行い、できる事や支援をすればできる事を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や本人の意向や要望、課題等、カンファレンスや朝、夕の申し送り時に気付きを話し合い、介護計画に繋げている。	「フェイスシート」「包括的自立支援プログラム」をもとに、初回の介護計画を作成している。個人ファイルで計画内容を周知すると共に、計画内容がタブレット内に入力され、未実施については赤字で表示され、計画に沿った実施と記録ができる仕組みがある。毎月のフロア会議で利用者の状況について情報共有や検討を行い、必要があれば随時、定期的には6ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っている。計画を見直す際は、「評価表」でのモニタリング・評価、「包括的自立支援プログラム」での再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催している。	介護計画を見直す際に把握した、利用者・家族の意向や主治医・訪問看護師等関係者の意見を記録し、反映することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや機嫌、様子、工夫、バイタル、排泄、水分量、排泄量、服薬を記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズは柔軟に対応することができる事とできない事があり、毎月の会議等で共有しています。また、訪問リハビリやマッサージを取り入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着とはいえ個人の地域に即した地域資源を利用するまでには至っていませんが、また、お米の発注は地域の商店にお願いしています。		

たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医は月2回の往診を実施。提携医とは個別に契約を結んで頂き、納得を得られています。	契約時に事業所の医療体制を説明し、本人・家族の希望に沿った受診を支援している。提携医療機関による月2回の内科往診と週1回の訪問看護、希望に応じて歯科や訪問マッサージを受けられる体制がある。訪問看護師が往診記録・バイタルチェック表に記録し、主治医と連携を図っている。他科を受診する場合は、家族の同行を基本としている。往診・通院の結果を介護記録に記録し、管理日誌(申し送り)で職員に周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面等日頃の気付きを訪問看護師に伝え、往診医との連携を取りながら適切な処置を看護師の指導のもと行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話にて情報収集を行い、家族様・往診医とも連携しながら早期退院ができる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医・家族様・施設で看取りの方針を話し合い、入居者様・家族様の意見を取り入れている。又、家族様から看取りについての同意書を貰っている。	契約時に、重要事項説明書内の「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」「急変時、終末期における医療等に関する意向確認書」を説明し、書面で同意を得て意向確認を行っている。重度化を迎えた段階で、主治医から家族に状況を説明し、家族に看取り介護の意向があれば同意書で同意を得ている。看取りに向けた介護計画を作成し、主治医・訪問看護師など関係者と連携を密にチームで支援に取り組んでいる。オンライン研修で「看取り介護研修」を実施している。	



たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習や緊急対応の研修を行っている又、緊急フローチャートを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。全職員が災害・災害時に対応できるように努めている。	年2回、施設合同で昼間・夜間想定で通報・避難・初期消火訓練を実施している。令和4年度は6月に夜間想定で、12月に昼間想定で、利用者参加で実施している。「消防訓練手順・報告書」を作成し、参加できなかった職員にも回覧し周知を図っている。訓練時は地域に声かけしており、今後は参加を呼び掛ける予定である。備蓄品は、法人が支給・管理し、非常用食料は最上階に保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や生活を把握し、その人に合った人格を尊重する声掛けを行っている。	接遇マナー・認知症ケア・身体拘束適正化・虐待防止に関するオンライン研修を実施し、人格尊重や言葉かけ・対応について学ぶ機会を設けている。利用者対応について課題が生じた時は、管理者が対応して助言したり、フロア会議で検討し、適切な言葉かけや対応ができるよう取り組んでいる。利用者の写真使用については契約時に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望・希望・意向を把握し、自己決定ができる支援を行っている。自己決定が困難な入居者様は選択ができる様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体を第一に考え、入居者様が望む生活ができる様に努めている。		

たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回の訪問理容を利用している。服装は本人の好みを尊重しているが、季節に合わない時は自尊心を傷つけないような声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付け(食器ふき等)をスタッフと一緒にしている。	委託業者から献立と食材が届けられ、各ユニットで調理した食事を提供している。利用者個々の状況に応じて、刻み食・ミキサー食等の食事形態に各ユニットで対応している。献立に季節感や行事食が取り入れられていると共に、事業所でもリクエスト食やイベント食を企画し、食事やおやつに変化が楽しめるよう取り組んでいる。利用者の意向や力を活かして、食器やお盆拭き、おしぼりたたみ等に参加ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記入して職員が把握し、摂取困難時は摂取できるような工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科医の往診があり、口腔ケアの指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記載し、排泄の自立を維持できるよう、又、家族様の金銭の負担が減少できるよう支援を行っている。	タブレット内の排泄チェック一覧で、利用者個々の排泄状況やパターンを把握し、声かけ・誘導により、立位が可能な利用者は、日中はトイレで排泄できるよう支援している。夜間は安眠にも配慮し、個々に応じた対応で介助している。介助方法や排泄用品等に検討事項があればフロア会議で検討し、現状に即した支援、家族の金銭的な負担軽減につなげている。ドアを閉める、見守りの方法を工夫する等、プライバシーや羞恥心への配慮を周知している。	

たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量や排便の回数を記載し、便秘時は往診医の指示で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日設定をしているが、本人の要望・意向に沿う様に対応している。	曜日を設定し週2回の入浴を基本としているが、利用者個々の体調や意向に応じて柔軟に対応している。入浴状況は、タブレット内の入浴記録で確認している。一般浴槽での個浴で、一人ずつ湯を入れ替え、各自のペースで入浴が楽しめるよう時間設定している。身体状況や意向等に応じて、シャワー浴・足湯・かけ湯等に対応し、安全確保のため一部2人介助を取り入れている。同性介助の意向があれば同性で対応し、入浴拒否がある場合は、声掛けやタイミングの工夫・日時や職員の変更等に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じ、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援や症状の変化の確認を行っている。又、看護師が薬の副作用など確認して職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯関係や室内で季節の行事やイベント等楽しんでもらえるように支援している。		

たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策が解除され、徐々に対応している。	4月には近隣の公園に花見に出かけ、家族との外出も再開している。希望に応じて、ベランダ・玄関前・近隣の公園で、気分転換する機会も設けている。今後、散歩や買い物、幼稚園の行事や地域のイベント等への外出等を徐々に実施していく予定である。食事前に口腔体操や各種体操、体調や年齢に応じフロア内の歩行運動、カルタ・歌・ゲーム等のレクリエーションを行い、機能低下予防に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はおられず、家族様より施設に預けたお金を必要時に使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと訴えがある場合は家族様に了解をもらい電話をしている。又、家族様、友達からのハガキや手紙は本人に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらうように季節の装飾作りを共に制作している。	共用空間は、大きな窓からの採光で明るく、清潔感が感じられる。広く開放感があり、テーブル席とソファ席が設置され、車椅子移動の動線にも余裕がある。空気清浄機の設置と換気で、快適で衛生的な環境を整備している。毎月、季節感ある装飾作品を職員と利用者が一緒に制作し、各フロアのボードに飾り付けしている。キッチンから調理の音や匂いがあり、利用者も食器拭き・お盆拭き・洗濯物干し・洗濯物たたみ等に参加し生活感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しており、自由の気の合った入居者様同士や職員で会話をしている。		

たのしい家都島

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族の好みに、使い慣れた家具や布団を設置しており、個々の個性が出ている。	各居室に、ベッド・クローゼット・緊急時コールボタン等が設置されている。箆笥・鏡台・テレビ・冷蔵庫・仏壇・家族の写真・自作の手芸作品等、使い慣れた物・馴染みの物が持ち込まれている。利用者個々の状況に応じて家具の配置や向きを工夫し、安全に自立した生活が継続できるよう配慮している。居室前に表札と自作の折り紙の作品を掲示し、居室間違いしないよう工夫している。居室担当職員を設置し、衣替えや環境整備を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事や支援をしたらできる事を把握し、自立できる生活を送れるよう支援をしている。		